



令和4年度・5年度・6年度
新座市教育委員会委嘱



令和5年度
研究紀要

〈研究主題〉

「自分の未来を創造できる児童の育成」

新座市立池田小学校

【研究の概要】

1 研究主題

『自分の未来を創造できる児童の育成』

2 研究主題設定の理由

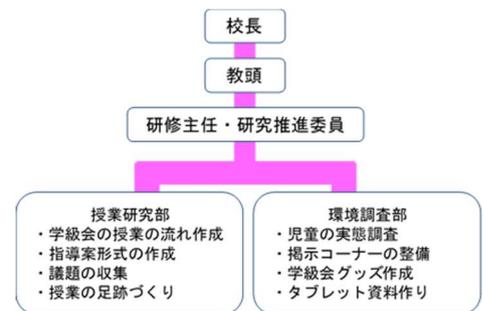
研修にあたり、「全国学力・学習状況調査」の結果を参考にしながら、課題を分析した。学力の課題もあったが、特に「自己有用感」についての項目の低下が顕著であった。自己有用感が高まることで、よりよく生きようという意欲や、学びに向かう態度の変化、そして未来を創造する児童の育成につながるのではないかと考えた。

そこで、研究主題を『自分の未来を創造できる児童の育成』とし、変化の激しい社会や人間関係の中でも、未知の課題に試行錯誤しながら対応し、自立的に生きていくことのできる児童を育成していくことを目標とした。そして、「特別活動（学級活動）」を通してより学びに向かう集団の基盤ができたり、自己有用感を高めたりするにはどんな手立てが必要かということの研究していくことの共通理解を図り、研究をスタートさせた。

昨年度は、主に学級会の指導について研究を進めた。議題の集め方、学級会の進め方、振り返りの方法などを共通理解し、指導に活用した。今年度は、学級会の指導と共に、学校行事にも力を入れ、自己有用感が高まる声掛けや振り返りなどについて話し合い、学校全体で児童の育成に励んでいる。

3 研究組織

研究主任・研究推進委員長が主となり、授業研究部と環境調査部の2部構成として、研究を進めた。全教員で、特別活動の指導力向上を目指し、研修に取り組んだ



4 研究の取組

- 4月 10日 特別活動研究決定の説明。自己有用感を高める実践→タブレット共有→指針の検討
- 4月 17日 専門部始動。
- 5月 15日 「児童が主体的に取り組むための学級会の進め方」「自己有用感を高める手立て」などを協議。
- 6月 30日 研究授業 3年2組 議題「七夕パーティをしよう」
指導者 教育相談センター副室長 大久保 洸 先生
- 8月 23日 夏季研修「自分の未来を創造できる児童の育成」について
指導者 教育相談センター副室長 大久保 洸 先生
- 11月 17日 食育指導力向上授業研究協議会
- 11月 27日 研究授業 6年1組 議題「届け、ぼくらのサンキュープロジェクトに取り組もう」
指導者 教育相談センター副室長 大久保 洸 先生
- 2月 16日 研究授業 1年1組 議題「6年生にありがとうを伝えられる会を開こう。」
指導者 星槎大学院教育実践科教授 大隅 心平 先生
教育相談センター副室長 大久保 洸 先生
- 2月 21日 研究授業 やまざくら1組 議題「思い出に残る活動をしよう」
指導者 教育相談センター指導主事 坂根 英子 先生

【研究全体構造図】

【学校教育目標】 健康で よく学ぶ 心のゆたかな子

やる気 ゆう気 げん気 あられる学校 池田小

【児童の実態】

- 子供らしく素直で思いやりがある。
- 夢や目標をもっている子が多い。
- 自分の考えをもつこと、表現することが苦手である。
- 自己有用感が低く、自分に自信がない。
- 勤労意欲はあるものの、クラスの役に立っている実感がもてていない。

【教師の願い】

- 互いの良さに気づける子になってほしい。
- 自信をもって自分の考えを伝えられる子になってほしい。
- 明確なビジョンをもち、工夫改善していきける子になってほしい。
- 様々な活動を通し、人の役に立つ喜びを感じる子になってほしい。

【研究主題】

自分の未来を創造できる児童の育成

【目指す児童像】

- 〈高学年〉 目標や夢に向かい主体的に考え、工夫改善できる子
- 〈中学年〉 目標や夢に向かい主体的に考え、工夫できる子
- 〈低学年〉 目標や夢をもち、主体的に考え、行動できる子
- 〈やまざくら〉 好きなものややりたいことを見つけ、他者との関わりから学ぶことができる子

【研究仮説】

特別活動(学級活動)の充実を図ることを通して、学びに向かう集団の基盤が形成されれば、児童の自己有用感が高まるであろう。

【仮説にせまる手立て】

〈主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善〉

- ① 計画委員が提案者と提案理由の練り上げをしっかりと行い話合いの軸を明確にさせる。
- ② 計画委員の時間を確保し、充実した話合いをするための計画を立てさせる。
- ③ 話合いのマニュアルを活用することで、誰もが安心して進行できるようにさせる。
- ④ タブレットを効果的に使い、意見をだしやすく、比べやすい環境を作る。
- ⑤ 他教科・領域や行事等と連携した学級活動を行うことで話合いや実践の充実を図る。

〈自己有用感を高めるための手立て〉

- ① 『話合い→実践→振り返り→成果・課題→次の活動に生かす』を継続的に行い、自分たちで課題を解決していく過程を見届け評価する。
- ② 様々な活動に対して、仲間からの声を大切にできる振り返りを行う。
- ③ 人を称賛し、やる気にさせる言葉かけのできる教師や児童を育てる。